

6) 華岡直道の外科の師岩永氏と華岡青洲の外科の師岩永氏について

On the Iwanagas, surgery preceptors of Naomichi Hanaoka and Seishu Hanaoka

弘前大学大学院医学研究科麻酔科学教室 松木明知

Akitomo MATSUKI

呉 秀三が『華岡青洲先生及其外科』を発表して以来、華岡青洲に関しての多くの問題が解決したかに見えたが、未だ多くの疑問が不詳のまま残されている。未解決の事項の一つは青洲の父直道の外科の師岩永氏についてである。彼について呉は上掲の著で次のように記している。

「青洲先生ノ父君ハ名ヲ直道ト云ヒ。二代随賢トス。(享保七年-天明五年)。内科医ニテモアリシガ。当時大坂ニテ有名ナリシ岩永蕃玄名ハ正徳(長崎ノ人岩永磐玄、正徳中大坂ニ来リ江戸堀南側犬斎橋西ニ住シ南蛮流外科ヲ業トス。享保十四年七月歿ス。蕃玄ハソノ子弟カ未_レ考)ヲ師トシ(日本医譜)、又内科ニ通ズ。」(句読点ママ、傍点、傍線省略)

享保7年生まれの直道が享保14年に歿した岩永磐玄に師事した可能性は極めて低く、故に呉は「蕃玄ハソノ子弟カ未_レ考」とした。呉は「日本医譜」を参考にしたが、同書(東京大学顎軒本)には「名正徳、字蕃玄。浪華人。以外科医名高于一世。華岡青洲父随賢師事之、以成其業。藤木直隅亦師事之。享保中人、京師岩永氏同族也。」とあるのみで「享保十四年七月歿」の記述は見当らない。中野 操は岩永磐玄、玄昌兄弟について簡単に触れ、兄磐玄の菩提寺は「(大坂) 齊藤町 浄光寺」で、享保14年7月21日に没したことを明らかにした。しかし直道との師弟関係については何の言及もしなかった。この問題を解決するため改めて磐玄の系譜について調査した。齊藤町の浄光寺は区画整理によって50年程前に吹田市寿町に移転したが、中村善等師にお願いして「過去簿」から岩永氏関係者の5名の戒名を拾い上げて貰い、演者もそれを確認した。次の5名である。

享保十四年 七月廿一日 宗善 岩永磐玄 五十七歳

延享 三年十一月 七日 妙善 岩永寿跡
養母 磐玄之妻

寛延 二年 四月十八日 宗寿 岩永寿跡
四十九歳

宝暦 元年十二月廿七日 宗元 岩永氏弟
三世磐元 童名伊津郎 十九歳

宝暦 四年 七月廿四日 妙寿 岩永寿跡
妻 四十四歳

初代は磐玄、二代が寿跡、三代が「岩永氏弟」の「伊津郎」と考えられ、寿跡は初代の実子と見て差支えないが、寿跡と伊津郎の関係は直ちに判断できない。直道(1722-1785)が磐玄(1673-1729)に師事したとするには甚だ無理であろう。年代的に磐玄の子寿跡(1701-1749)を師とするのが妥当と考えられる。直道が18歳で入門したとすれば、師の寿跡は39歳となり、全く矛盾はない。寿跡が磐玄を襲名したことは当然であろうが、名も同じ「正徳」とは考えられない。したがって直道が「蕃玄(正徳)」に師事したという「日本医譜」記述は直ちに信頼できない。なお「過去簿」には享保14年6月以前、宝暦4年8月以降、岩永氏の戒名は全く認められない。

青洲は大和見立に外科を学んだが、大塚敬節は中川修亭の「女科箋諦」の記述を根拠に青洲が京都の「岩永氏」も外科の師であることを明らかにした。しかし具体的なことは何も言及していない。

「日本医譜」の岩永氏についての記述末尾にある「享保中人、京師岩永氏同族也」は重要であり、享保年代の京都の「岩永氏」は浪華の岩永磐玄(正徳)の一族であるという。

「日本医譜」の「岩永蕃玄」の次に「岩永左門」の条がある。「姓菅原、以外科為専門、鳴于一世。京師人。其子貞吉、名獵徳、字耕道、号穆斎。継業脩外科。歿後無嗣。」これによれば系譜的に左門-貞吉となる。貞吉は文政五年版の「平安人物

志」に披見される「菅原獵斎 号獵徳、字耕道、柳馬場蛸薬師南 俗称 岩永貞吉」と同一人物と見て差支えない。京都の寛政-享和年代の番附「新撰医師視立角觥合」の東方に見られる「外科 岩永○助（○は解説不能）」と左門-貞吉の関係は分

からない。左門、貞吉ともに生没年は不詳であるが、京都に他に岩永姓の人物がいなかったことなどから、中川修亭の著に見える青洲の外科の師は京都の岩永左門-貞吉の系譜に繋がる人物であろう。